

昭和 45 年 農 業 基 本 調 査

農 家 意 識 調 査 結 果 に つ い て

県統計課農林統計係

本年 2 月 1 日 で実施した農家意識調査について次のような結果がでた。対象農家は、193,115 戸で回答者は経営主である。

I 将来の農業経営について

農業生産に直接たずさわっている経営主に将来の経営志向を 4 項目について聞いた結果次のとおりである。

1. 現状を維持したい	74.8%
2. 拡大したい	11.6%
3. 縮小したい	7.9%
4. やめたい	5.7%

以上の結果から将来もひき続き農業を経営したいという意欲ある農家が大半をしめている。

これを経営耕地の広狭別にみると第 1 表のとおりであるが、どの階層においても「現状を維持したい」が高率を示しており、「拡大したい」は大規模農家になるにつれて高い率となり、反対に「やめたい」は小規模農家になるにつれ高くなっている。

第 1 表 将来の農業経営の割合 (単位 %)

区 分	県計	30アール以下	30~99アール	100~199アール	200アール以上
現状を維持したい	74.8	68.2	74.9	76.6	74.8
拡大したい	11.6	4.7	7.5	15.5	21.4
縮小したい	7.9	7.8	10.5	6.4	3.1
やめたい	5.7	19.3	7.1	1.5	0.7

II 協 業 経 営

1. 協業経営を実施している農家について

県における協業経営 (2 戸以上の世帯が、農業経営に関する栽培・飼育・販売・収支決算等一切の過程を共同

して行ない収益を分配しているもので部門協業経営も含む) がどの程度行なわれているか、またその経営部門はどのようなものであるかを聞いた。

これによると協業経営参加世帯は、5,516 戸で総農家数にしめる割合は 2.9% と低い。この内訳を専兼別にみると第 1 種兼業農家・専業農家・第 2 種兼業農家の順となっており、割合はそれぞれ 49.2%、28.3%、22.5% となっている。

また、この内訳を地域別にみると、東北地域が 38.7% (2,138 戸)、県南地域が 25.3% (1,396 戸) 鹿行地域が 20.7% (1,140 戸)、県西地域が 15.3% (842 戸) となっている。

なお、協業経営参加世帯を部門別にみると第 2 表のとおりである。

第 2 表 協業経営の部門別割合

区 分	割 合 (%)
畜 産	30.0
施 設 園 芸	19.7
養 蚕	16.7
果 樹	7.8
そ の 他	25.8

2. 協業経営を実施していない農家について

協業経営を実施していない農家で今後協業経営をやりたいかどうか意向を聞いた。

これについて、「わからない」と答えたのが 53.7%、「やりたくない」が 38.8%、「やりたい」と答えたのが 7.5% しかなく全般的に消極的である。これを専兼別にみると第 3 表のとおりである。

第3表 専兼業別協業経営の意向の割合
(単位 %)

区 分	協業経営を したい	協業経営を したくない	わからない
専 業	10.7	37.2	52.1
第1種兼業	9.8	38.7	51.5
第2種兼業	3.5	39.7	56.8

また、農家がどのような部門で協業経営を望んでいるかをみると次のとおりである。

施設園芸	32.9%
畜 産	27.6%
果 樹	7.7%
養 蚕	6.5%
そ の 他	25.3%

Ⅲ 将来の主な農業部門

将来の農業経営について、経営主はどのような部門を主体として行なっていくか。その経営観を聞いた結果は第4表のとおりである。

このように、どの地域においても<いね>の率が高く鹿行地域を除いてはいづれも50%以上となつている。今後も稲作を中心とした農業経営が行なわれると思われる。

第4表 将来の農業経営の割合 (単位 %)

区 分	県 計	県 北	鹿 行	県 南	県 西
い ね	55.6	55.1	39.2	59.7	59.7
麦 類	2.3	3.4	2.5	1.3	1.5
野 菜	12.2	8.9	21.3	10.4	15.1
果 樹 類	3.7	2.8	2.9	5.6	3.2
施設園芸	3.9	2.9	10.8	2.8	3.6
花 キ 類	0.7	0.7	0.7	0.9	0.4
酪 農	2.0	2.5	1.8	2.0	1.3
養 豚	4.4	4.1	4.7	4.8	4.2
養 鶏	1.2	1.4	1.5	1.1	0.8
養 蚕	2.5	2.4	3.3	2.8	2.0
肉 用 牛	0.7	1.6	0.3	0.3	0.1
そ の 他	10.8	14.2	11.0	8.3	8.1

統計ニュース

■ 昭和45年国勢調査予想人口懸賞募集入賞者

予想人口懸賞募集は10月末日でしめ切りましたが、総応募者数は、前回の約2倍、6,300通の多数に及び、5人の方々が入賞という盛況ぶりでした。

国勢調査実施本部の発表した入賞者は次のとおりです。

なお、同本部発表による昭和45年10月1日実施の茨城県人口は2,143,391人となつております。

●特賞 該当なし

●1位 10,000円

下館市大和町562	飯塚まさこ	応募人口2,145,392人
土浦市仲町644	小田 透	〃
水戸市城東2丁目	山本 弘	〃

江戸崎町門前甲2,369 菊池良平 応募人口2,143,392人
水戸市河和田町1,966の5

大図房子 〃

●2位 5,000円

石岡市染谷	市村京子	2,143,388
水戸市城東2丁目	山本 弘	2,143,387
八郷町片岡	大野谷功	〃
美野里町上馬場	細谷直子	2,143,395

●3位 2,000円

日立市東河内町328の1	野上日郷	2,143,397
水戸市城東2丁目	山本 弘	2,143,401